

西南学院大学

図書館報

第17号

昭和36年7月7日発行

発行所 福岡市西新町798 電0031

西南学院大学図書館

发行人 山下和夫

図書館に想う

学長古賀武夫

学校教育法は、大学の目的として、——大学は学術の中心として、広く知識を授けるとともに、深く専門の学芸を教授、研究し、知的、道徳的及び応用的能力を展開させることを目的とする。——と規定している。即ち、大学は、一国の科学文化の中心であること、最高の専門教育の機関であるとともに、研究機関であること、その専門教育は広い知識と教養との上に行わるべきこと、が明らかにせられているのである。科学や文化の進歩、発展は、先人の業績が土台となり、これに学びながら、或いはこれを展開し、或いはこれを止揚することによってなされるものである。そして先人の業績は、社会科学の分野では殆んど全面的に、自然科学の分野でもその大部分は、図書の形でこのされるものである。

大学が、一国の科学文化の中心であるならば、図書館が大学の中心でなければならないのは殆んど自明の理であると言って差支えないであろう。大学がその課せられた使命を達成しようとするならば、先ず図書館の充実に努めなければならない。西南学院大学が新制大学として発足したとき、30年の歴史を持つ専門学校から受け継いだ図書館は、その建物において、その内容において誠に貧弱なものであった。幸い内外の援助と、歴代の館長、教職員の皆さんのお努力の結果、次第に内容、外観共に拡充されて来たことは感謝にたえない。又その運営においても、著しい改善がなされ、機能がよりよく発揮せられるようになって来たことを喜ばしく思う。大学図書館は、現在の建物の建築に際して、開架式に踏み切った。これは西日本では始めてのケースであると言われ、各方面から注目の的にされているとのことである。開架式は、図書館の利用者にとっては、極めて都合のよい制度である。然し、この制度の成否は、この制度によって恩恵を蒙る利用者の意識にかかっている。開架式の結果として、図書の無断帶出、切取りが増加し、止るところがないならば、開架式を採用することによって、図書館は自滅してしまう結果になる。利用者である学生諸君の良心に訴えて、図書の盗出、切り取りの絶減を期したいものである。

大学図書館は、次第に充実して来たが、尙、専門誌のバック・ナンバーや学内の各分野におけるクラシックが十分集められていないことに、最大の欠点がある。何とかし

て、資金を得てこの方面の充実をも計りたいものだと念願している。

又、蔵書数の増加と、利用者の漸増によって、図書館そのものが手狭になりつつある。更に又、図書館の機能をより良く発揮するためには、現在の図書館の設計そのものにも改善を要する点があることが、明らかになって来ているようだ。38年度、第2校舎の建築に引き続いて、図書館の新築が計画されている。それ迄に、他の優れた図書館の設計、運営の仕方等が十分に調査され、西南学院大学の誇りになるような、立派な図書館が出来あがることを念願している。

告知板

○ 夏休中の開館について

夏期講座がある日は平常通り午前8時30分から午後7時40分まで開館します。ただし、次の日は休館します。

休館日 8月7日から23日まで 鋼製書架据付工事のため
8月29日、30日 事務局夏期修養会のため
夏期講座のない日は午後5時までです。

(8月28、31日および9月1、2日)

なお、休館日は工事の都合で変更することがあります。

○ 夏期休暇中長期貸出

7月1日から夏休長期貸出を行ないます。冊数は2冊で、期間は9月13日までです。

○ 卒論特別貸出

4年生で卒論作成中の人には、卒論用特別貸出制度があります。ゼミの指導教授の証明をもらってくれれば、3冊1か月間借り出せます。係までお申し出下さい。

○ 司書講習について

昨年夏本学で実施しました図書館専門職員養成の司書講習は今年は本学では行なわず、九州では別府大学で行なわれます。期間は7月10日から9月10日まで、受講料4,500円(15単位)、申込期間は7月1日までとなっています。詳細は別府大学(別府市北石垣)にお尋ね下さい。

○ 本館に5月から品川司書が就任されましたのでご紹介します。九大文卒の新進気鋭の士です。図書館の職員面の充実が久しく望まれていた矢先でもあり、同君の今後の活躍が期待されます。

特 集

利用者の意見を聞く

座 談 会

とき 6月28日

出席者	助教授	原田	三喜雄
	講 師	古沢	嘉生
英3年	師	岡	和枝
		井	彰一
2年		上	素子
		大	登美子
1年		竹	勝春
		林	介
1年		城	俊毅
		野	和夫
商4年		瀬	
		小	
4年		森	
		木	
3年		村	
(図書館)館長		山	
司書長		下	

木村 実は、以前からこのような集まりを学生諸君とは是非持ちたいと考えていたのですが、なかなかその機会が無くて、やっと今日皆さんにお集り頂けることになったわけです。大学における図書館の重要性については、今更申し上げるまでもありませんが、皆さんこの図書館をよりよくしてゆくために、今日は一つ皆さんの忌憚のないご意見を充分に聞かせて頂きたいのです。で、どんな点からでも結構ですが、とりあえず参考までに、私から現在の図書館の運営状況について、あらましをご説明しておきましょう。（木村館長から図書館の運営の概況を説明）

原田 では、私からお尋ねしますが、全体的に見て図書館が学生の自習室に化して図書館としての機能を充分果していない面があるように思われるのですが……。

A その点は同感です。学生は図書館を自学自習に使っていて、逆に図書館の蔵書は借りて歸って家で読んでいる人が多いようです。試験期間中は特に激しいようですね。

木村 ええ、その傾向は確かにあります。でも図書館に来て参考書を探して勉強している人もかなりありますよ。勿論試験期は自習室みたいになってていますが……。図書館の資料の点はどうでしょうか。

B シリーズになっている講座類で途中が欠けているのがよくあります。あれは早く揃えて欲しいですね。

木村 誰かが借り出している場合は貸出係の処でお尋ねになるとすぐ分ります。そうでない場合は、無断持ち出したり取りなど事故があったものかも知れません。なるべく早く補充したいと思いますが、特に急ぐ場合は希望を出して下さい。

B 新刊棚には難しい研究書が多くて学生向きなのが少ないように見受けるのですが……。

木村 そうですか。実は新刊の購入方法ですが、図書館では沢山の部門に予算を分けて各部門に専門の先生方が担当者となって選択決定されているのです。各先生でそれぞれ方針に若干の差異があるでしょうが、皆さんの希望は是非購入希望申込書に書いて出して下さい。

山下 購入希望はその殆どが購入決定になっていますね。

木村 一体に申し込みがまだ少ないようですが、希望は殆ど通っています。またその本は優先的に早く整理するようにしています。

B 現代日本文学に関する最近の小説は、新刊書があまりはいっていないように見うけられます。

木村 そうですね。現在、国文学部門では古典を中心とし

て図書を購入してあるようです。で現代文学は、これまで購入が少なかったようですが最近、文芸という部門を新しくつくって、できるだけ購入することにしました。

C 数学の新刊書の購入も少ないようです。それに、この部門の購入図書の内容が難かしく程度が少し高すぎるようを感じるのでけど。実は最近の近代経済学の研究には数学を使いますので不便を感じているようなわけです。

木村 この数学部門は一応純粹の数学をその対象にしているものなんですが、別に数理経済学に関係のある図書は経済学の部門の中で購入できるかも知れませんから、希望があれば取り次ぎましょう。

B それからまた、実務コースに必要な資料が少ないですね。

木村 そうでしょうね、しかし、レコード類などは今後、英文学部門で次第に揃えるよう計画されているようです。ただこうしたレコード類は管理方法に問題がありますので、それも検討中です。

D 英文学部門の図書についてですが、シェークスピアについての図書は、よく揃っているように思いますが、それ以外の著者の作品や研究書ももっと備えてほしいと思います。又、英文学では訳本が少いように思いますが。

木村 英文学部門については、訳本はあまり買わないのが原則のようです。出来るだけ原書で読んでもらいたいという考え方からなんでしょうがねえ。

E ベスト・セラーになったような新しい本を、もっと買ってもらいたいです。又、文庫類が見当りませんが、どんなになっているのでしょうか。

木村 岩波文庫・新書・全書、クセジュ文庫などは事務室にクローズとして備えてあるので、目録で検索して係員に申し出て下さい。これらの文庫は以前はオープンとして閲覧室に出ていたのですが、紛失などの危険もありクローズとしたものです。

B 文庫類の新刊書も購入してあるのですか。

木村 以前は文庫は、その主題の部門部門で購入していましたが、今年度から、こういう文庫類は、一括して予算をとり、もれなく購入するようにしました。

C 学生の中には自分たちの要望を図書館に申し出ても、応じてもらえないが始まから思いこんでいるような空気があるようで……。

木村 そんなことでは困ります。遠慮せずにどしどし要望を申し出で欲しいですね。

D それから閲覧室についてですが、夏は南側の方に閲覧

机がありますので、大変暑いですねえ、書架が北側なので、書架と机とを入れ替えてもらえないでしょうか。無理な希望だとは思いますが、3階は特に暑いんですよ。

木村 おっしゃることはよくわかります。しかし書架を移動することは大変ですし、それにまた、電気の具合も変えねばいけませんし、困難と思います。

E 入館の際の手続きが非常に面倒に感じるのですが。もっと簡単にはならないのでしょうか。

木村 現在のこ程度の手続きは、他の大学の場合でも普通のようですね。特にこの図書館のようにオープン・システムの場合は、携帯品は預けて入館するというのが普通じゃないでしょうか。

F 私は携帯品は預けた方がよいと思います。預けた方が安心であり、又、閲覧室では机の上が整然としてよいように思います。

多数 やはりこの程度は当然でしょうね。

F 新聞のとじ込みはどのようにしてあるのでしょうか。日も決めてあるのですか。

山下 新聞は10日ずつまとめて一括して保存しています。

F 目録をひく場合図書の請求番号には、その図書の所蔵場所が記入してあると便利がよいのですが。

木村 それは便利かも知れませんが、図書はその配架されている場所が、閲覧室の変更などで模様を変えをすることがありますし、将来増築の場合のことも考えますと、図書にその場所を記入することは出来ませんねえ。分類番号で大体の見当がつくのではないかと思います。

F 書架の上に掛けられている見出し板は、書架の間にはいってしまふと見えなくなります。見えるような形に掛けて頂けたらと思います。

E 図書を借り出した場合ですが、借り出した図書は更新できず、1日置いて又借りねばならないのが非常に不便に感じますね。

D 私は逆なんですが、他にその図書に対する利用者が多い場合には公平に利用できるようにするために1日置くのも仕方がないのではないかでしょうか。

木村 これについては、授業や試験の関係で、参考図書として利用の多い図書は、担当教授によってリザーブ図書とすることができます。また、オープンの図書館の場合では1日置いて、他の利用者の便もはかるのが普通のようですが、更新制度と貸出予約制度は今後検討したいと思います。図書の複写サービスについてどうですか。切り抜き事故の防止にも相当役立っていると思っているのですけど。

D 複写料金はもっと安くはならないのでしょうか。

木村 これは出血価格でサービスをしているものですから、これ以上安くするのは困難ですね。

原田 学生の複写利用状態はどんなですか。

木村 かなりあるようですねえ。

G 開館時間はもっと延ばしてほしいと思いますが。

木村 昨年までは9時閉館であったわけですが、夜間の学生が少なくなったのと、実際の利用者が非常に少ないでの現在の7時40分までに短縮し、浮いた人手を昼間に回して、図書の整理面の充実を計ったのです。昨年統計をとってみたのですが、試験期間でさえ少ないので実状でした。一部のよく勉強される人のためには、誠に気の毒だとは思いますが。しかし、試験直前から試験期間中に

かけては9時まで開館することにしています。

G では朝の開館時間は早くならないのでしょうか。

木村 これも館員の勤務時間の関係上困難です。労働基準法の関係もありますし。

F 夏休み期間中の開館はどんなになりますか。

山下 今年は夏期講座のある日は平常通りですが、8月7日より23日までの15日間は鋼製書架据付工事のため閉館いたします。

A 2、3階の休憩室の机は、ひとつけず離して個別化すれば、利用がし易くなると思いますが、今では1組はいっていれば何だかはいりにくく感じられます。又、これは別のことですが、図書館でどんな本を読んだらよいのか、わからずにいる人が見つけられるようですが。

木村 そうですか、指導面としてのレファレンス・ワーク、これはアメリカなどでよく行われているのですが、西南に大学院があれば、その学生を使うこともできるのですが。しかし、いろいろ研究して見ましょう。

原田 講義の時間にそういう面の指導はないのですか。

A 2、3年生については適当な指導がないように感じられるのですが。

山下 これについて図書館報では時々、こうした読書案内を出していますが、ごらんになっていますか。

原田 毎年学期始めには、経済セミナーなどの雑誌にもこういう案内がでています。次に私から、これは将来に対する要望ですが、新しい図書館が将来できる場合には、現在の休憩室が、あまり息抜きの場所とならないので、屋上を利用できるように館の構造を考えてもらいたいと思います。

木村 同感です。

C 辞書類の所在がどうもあいまいのようですが、

山下 そうですね、一般的の辞書は辞書室に、商学関係の辞書は商学閲覧室にまとめていますが、語学関係の辞書は英文閲覧室にその大部分をおき、又その利用上各閲覧室にも分散させています。

C それから講義に関係ある参考書については、副本を備えて欲しいと思います。

木村 そういう図書についても、皆さんから希望を出してもらえば検討します。

A 学生、特に卒業生からの図書の寄贈についてはどうなっていますか。

山下 以前は積極的に働きかけをやっていましたが、最近は殆どやっていません。寄贈された図書については寄贈者名を図書に記入の上、一般的の図書と同じように取り扱っています。

原田 雑誌の購入希望についてはどうなっていますか。

木村 雑誌も図書と同じような手続きで決定します。又、雑誌については、学術研究所の方にも相当種類あります。これは先生方の講義や研究資料に使われているので、比較的新しいものは学生諸君は利用できませんが、少し古くなつて製本されているものは閲覧、帶出できます。それでは時間も参りましたし、この辺りで終りたいと思います。どうも有難うございました。

(記録 伊藤)

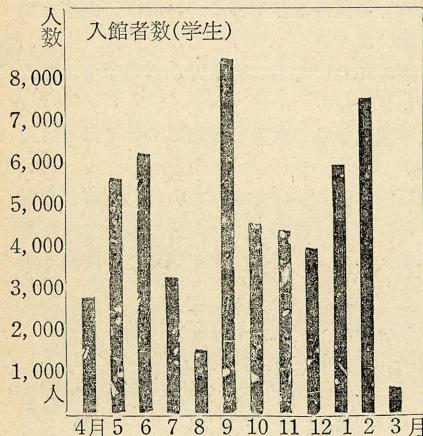
奉仕係より

館外貸出冊数統計表

分類別	昭34年度	昭35年度
0 総 記	99	86
1 哲 学	1,761	1,685
2 歴 史	457	254
3 社会科学	5,159	4,849
4 自然科学	499	558
5 工 学	185	129
6 産 業	1,343	1,173
7 芸 術	485	482
8 語 学	354	395
9 文 学	4,321	4,996
雑 誌	298	512
計	14,961	15,119

この貸出冊数統計表は学生のみの34年度と35年度の比較表です。文学部門と雑誌の貸出が増加しているのが目立っています。

昭和35年度学生入館者月別統計表



年間の学生入館者数は53,955人で開館日数285日ですから、夏休みなどの閑散期も含めて1日平均入館は約200人位となります。

隨 想

核

二科会

寺田健一郎

この二年程、作品の題名は大きさに拘らず「核」という事にしている。個展をする場合などは「核による連作A・B・C……」とする。別に深い意味があつてこういう題をつけたのではない。何となく「核」という字が好きだからである。

題名を人にきかれたら「カクです。核分裂、原子核の核です」と云うことにしている。きいた人は、なるほどとうなづく人もあるが、大部分の人はわかつた様なわからない様なあいまいな顔をする。そんな顔を眺めるのも楽しみなものである。

カクは結核の核ですか、といった人がある。その核ですと答えると、しげしげと画面をみて「なるほど、結核菌を描いたのですな」ときた。全くの抽象画であるからどうみられても勝手である。私の知人に漢和辞典をめくって意味ありげな字をひろって置き、画が出き上ると、それを順につけていく人がある。要するに題名なんてものは符号であつて作品の説明ではない。だから作品の内容とはあまり関係はない。

画の説明をしてくれという質問ぐらい困るものはない。特に抽象画の場合そうである。イメージの発想や技法上の説明でこじつけられない事はないが。そんな事と芸術の感動とは別の問題である。一体に抽象具象の区別をしきるのではなかろうか。抽象、具象、非具象等の言葉は美術史家の分類の上には便利なものであるが、抽象画家や具象画家の肩がきはナンセンスである。

私の制作上の心がまえは次の様に考えている。それは「自分が現在生活している社会、日本という社会で自分を孤独にする条件を意識して作り出す事に必要な努力をする事」である。社会との結びつきを自分の精神の内側に求めて、個を徹底した孤独の圧力の下に置いて極点まで自己を解体していくことである。それにはいわゆる現実否定の精神が必要となるだろう。抽象画(現在、類型的な抽象のはんらんではあるが)、アンフォルメル運動の大きな要素である新しい素材の発見等も、その為の実験の一つであろう。表現の上で抽象画であろうと具象画であろうと問題ではない。といつても實際にはというと、制作は経験的で体質と技術の上に固定しやすいので、つい、知らず知らずのうちに抒情や感覚の洗練をねらった作品を作り上げてしまうのである。試行錯誤とはいっても、まっくらな室の中を手さぐりでぐるぐる回っている様な気もする。そろそろ核という題名を変えようかとも思っている。

(筆者は本学商学部昭29卒、本館への絵画寄贈者)

○ 最近入館者の数が相当増加しています。それに伴なって少し騒々しくなり、読書の雰囲気が壊されがちで困っています。静謐のエチケットを是非守って下さい。

○ 2階3階から係に質問したい場合に便利なように、館内インターフォンの設備がされました。目指す図書が発見できない場合、その他質問したい際は遠慮なくご利用下さい。事務室の係へつながります。

○ 日本十進分類法を掲示して欲しいとのご希望が再三出ておりまます。現在準備中ですが、とりあえず分類主綱表の写しを応急措置として掲げておきました。

編集後記

17号はお多忙な学長より原稿をいたたくと共に、又、特集として、利用者の皆さんと座談会を催した際の記録を記載した。こうした座談会の折だけでなく、皆さんのお意見やお希望は、どしどし申し出てほしい。

(I)